

堺と芝居

—興行の場とゆかりの人々—

平成31年

3月30日(土)~
5月12日(日)



千利休を演じる曾我廼家五郎(当館蔵)



二代自中村富十郎錦絵
(堺市立中央図書館蔵)

- 開館時間 午前9時30分~午後5時15分(入館は午後4時30分まで)
 - 休館日 月曜日(ただし祝日は開館)
 - 観覧料 一般200円(160円) / 高校大学生100円(70円) / 小中学生50円(30円)
- ※()内は20名以上の団体料金 ※堺市在住の65歳以上の方は無料(要証明書)
※堺市内在住・在学の小中学生は無料 ※障害のある方は無料(要証明書)

堺市博物館

SAKAI CITY MUSEUM

〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内
TEL.072 (245) 6201 FAX.072 (245) 6263
<http://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/>
フェイスブックにも堺市博物館の情報満載
<https://www.facebook.com/sakaishihaku/>



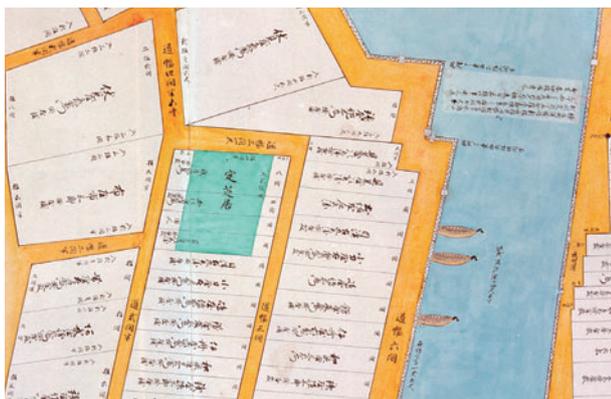
◆開催趣旨

江戸時代の堺は、^{えびすじま かぎまち}戎島や^{なかもらとみじゅうろう}釜町に芝居小屋が置かれ、町なかに広い境内地をもっていた菅原神社・開口神社（大寺）・^{すがわらじんじや あぐちじんじや おおてら しゆくいん}宿院でも各種の興行が行われました。本展では、二代目中村富十郎（1786～1855）や、江戸時代の芝居が行われた場所や演目に関する資料を中心に、江戸時代から近代にかけて堺で行われたさまざまな興行についてご紹介します。

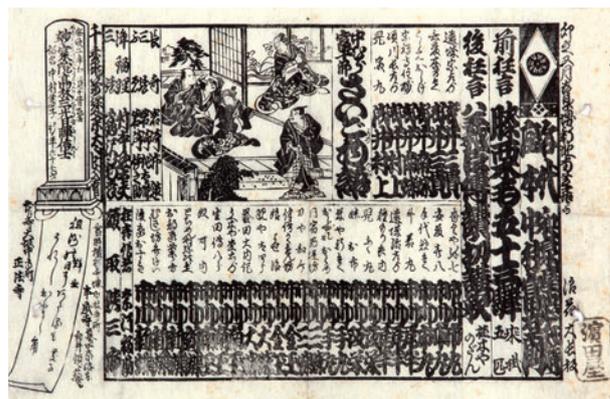
また堺は、江戸時代から近代に至るまで、芸能や演劇にゆかりの深い人物が多く輩出しました。なかでも、曾我廼家五郎（1877～1948）は、曾我廼家十郎と曾我廼家兄弟劇を旗揚げし、現在に続く喜劇の基礎を築いた人物で、脚本家「^{そがのやごろう}一堺漁人」^{いっかいぎょじん}としても知られています。このほかにも、高三隆達・食満南北など堺にゆかりの芸能・演劇人にかんする資料をご紹介します。

みどころ1 江戸時代の堺の芝居興行の様子わかる！

江戸時代の堺の町で、芝居興行が行われた戎島や大寺境内などの場所や、天保年間に堺を拠点とした歌舞伎役者・二代目中村富十郎に関する資料などを紹介します。



元禄堺大絵図謄写本（当館蔵）のうち戎島付近



芝居番付（安政2年5月、新地南芝居、当館蔵）

みどころ2 喜劇王・曾我廼家五郎の魅力わかる！

堺の生んだ喜劇役者・曾我廼家五郎について、五郎ゆかりの^{じょういん}浄因寺の資料をはじめ、公演のパンフレットや著書、書画、愛用品などから紹介します。



曾我廼家五郎一座（前列右から三人目が五郎）



五郎の化粧台（個人蔵）とパンフレット（当館蔵）

◆学芸講座

4月14日（日）午後2時～3時30分

「堺と芝居—二代目中村富十郎から曾我廼家五郎まで—」

講師：当館学芸員

会場：博物館ホール（定員100名）、事前申し込み不要。当日直接会場へ。

講演後に展示品解説を行います。展示品解説に参加の場合は、要観覧料。

◆展示品解説

①3月31日（日）、②4月20日（土）

いずれも午後2時から30分程度。事前申込不要、直接企画展会場へ、要観覧料。

■次回の予定

無形文化遺産シリーズ展

「和紙文化への招待—日本の^{てすき}手漉和紙技術の現在—」

平成31年5月18日（土）～6月23日（日）



堺市博物館公式キャラクター
サカイクレルくん
©YABUCHI Satoshi



◆交通案内

- 電車 JR阪和線「百舌鳥」駅下車徒歩約6分
- バス 南海高野線「堺東」駅から南海バス（40系統約10分）、バス停「堺市博物館前」下車徒歩約4分
- 駐車場 大仙公園第三駐車場（仁徳陵東南・有料）